

大阪損保革新懇ニュース

No. 93
2008. 5. 14

大阪損保革新懇事務局
大阪市中央区道修町三の三の十
大阪屋道修町ビル3F 066331095

シンポジウム

『国民生活に軸足をおいた損保代理店・外勤社員

そして共済の社会的役割を考える』に一八五名

「初の『損保と共済』連帯イベント盛会」

四月二四日(木) 中央区淡路町A Aホールにおいて、「保険と共済を考える実行委員会」主催『国民生活に軸足をおいた損保代理店・外勤社員そして共済の社会的役割を考える』シンポジウムが開催されました。会場は一八五名の参加で満杯。損保現役社員・損保OB社員・損保代理店・各種共済関係者・生協関係者など多彩な顔触れで、遠来の参加者も多くありました。初めての損保と共済の連帯イベントは大きな成功をおさめました。小畑裕久氏(損保ジャパン)の司会ではじまり、開会挨拶を実行委員会を代表して野村英隆氏(大阪損保革新懇代表世話人)、特別報告『金融・損保産業の現状をどう見るか』を品川正治氏(国際開発センター会長、経済同友会終身幹事、元日本火災社長・会長)、基調報告「保険・共済の『社会的役割』を考える」を松浦章氏(大阪損保革新懇世話人、兵庫県立大学大学院)が行いました。その後、六名の報告者(営業社員、法人専業代理店、外勤社員、共済の役員、生協代理店など)から、「代理店の現状と実態」「『改正』保険業法の共済つぶしを許さないたたかいかいを」など報告のあと、会場からの発言を求め、浜松と福岡の代理店の仲間から発言がありました。そして、最後に再度品川正治さんが感想的発言を行い九時前に終了しました。その後、場所を移動して、実行委員会・報告者・遠来参加者を含めて五〇数名が品川氏を囲んで懇談、今後も今回のような産業を越えた連帯の取組みを進めていくことを約束しました。

要旨

特別報告 品川正治氏

「金融・損保産業の現状をどう見るか」

私は、旧日本火災の社長・会長をやり現在日本興亜の相談役です。今日は損保始まって以来の共済とのシンポの集いということで開催しました。経済政策・金融のあり方についてお話ししたい。なぜ小泉政権以降日本とアメリカと価値観が

一緒だということか。日本は憲法九条で戦争をしないとしている。アメリカは現に戦争をしている国。世界で原爆を落としたたった一つの国のアメリカとたった一つ落とされた日本が価値観を共有できるわけがない。人間の目で見て、戦争をすべきでない、戦争放棄と交戦権を認めないというのが日本国憲法です。世界に

足軸に軸生活国民 共済と保険



品川正治氏(ホールA) 講演する 4/24

先駆けて戦争を人間の目で見ると経済もどうして人間の目で見ないのか。小泉政権の時、竹中さん以下新自由主義のネオコンの人にまかせて徹底した市場原理主義をとりました。

私はすべてを市場にまかせることに大反対です。教育・医療・福祉・農業・環境は人間の努力で行うものです。雇用についてもめっちゃくちゃとなっている。

日本の経済は、成長の利益は国民に分配するという資本主義です。私は社長の時代に資本家のために経営しているなどとは、一度も考えたことはない。社員のため、代理店のため、得意先のためと考えるのが経営者のDNAでした。しかし今はどうやって代理店制度や、外務社員制度をなくしていくかという新自由主義の陰險な経済政策の犠牲となっています。損保の代理店さんが地方のすみずみにおられることが日本の安全弁でした。今の代理店政策はまちがっています。損保に身をおいた人間として、今の損保の在り方で果たして良いのか。平和憲法を持っている国の経済はどうあるべきかを追及しています。そういう意味で本日のシンポは大変画期的です。(文責 事務局)

基調報告 松浦章氏

「保険・共済の『社会的役割』を考える」

セーフティネットの崩壊と保険・共済
日本のセーフティネットが崩壊しようとしています。一つは社会保障の相次ぐ改悪、そしてもう一つが、共済と保険をめぐる問題です。根本には、政府の市場原理主義があります。

しかし、共済・保険の精神は、「ひとり」は万人のために、万人はひとりのために」です。すべてを市場にゆだねるのではなく、市場の限界を把握する、社会発展の多様性を認め合うところから私たちの事業は成り立つのではないのでしょうか。

共済の灯が消える！

四月、共済の規制がスタートしました。「自主共済」四三〇業者のうち、一八六業者が廃業することです。「共済」を自称するエセ業者を取り締まるために、まともな共済まですべて保険業法の規制対象とされてしまい、日本勤労者山岳連盟の「遭難対策基金」、PTAの「安全互助会」などが危機にあります。背景には、米政府・保険会社の圧力がああります。アメリカの今のターゲットは「健康保険制度」と「共済」です。腹立たしいのは、共済攻撃に損保が加担していることです。

「選別と切り捨て」損保各社の代理店施策

損保各社は今、「適正募集」を代理店に求めています。問題は、一方的に選別され切り捨てられる代理店が相次いでいることです。損保各社が考えているのは効率化のみであって、代理店とともに歩むという姿勢はまったく見られません。

かつて七〇万あった代理店は、今や二〇数万です。効率化一辺倒の政策が採られたとき、保険料が少額の契約者が切り捨てられる心配はないでしょうか。セーフティネットを広げる「社会的役割」を考えると、契約者と密着し、契約者の真のニーズを把握する代理店の育成こそが求められています。

特別報告の品川正治氏、基調報告の松浦章氏、そして六名の報告者の全文および参加者による感想文などを「シンポジウム報告集」として後日事務局で作成します。

九条世界会議・関西に八千人が集まる！

損保からも五〇数名が参加

「九条世界会議in関西」は、五／六（火・祝）の五月晴れの日、舞洲アリーナで開かれ八千名が結集し大阪損保革新懇からも五〇数名が参加しました。参加者一同が野外的木陰で昼食を早々とすませ、会場の正面の二階に大阪損保革新懇のぼりをたてて陣取りました。一二時からのメインステージでの海外ゲストの講演やリレートーク・対談、ロックバンドなどのイベントに楽しく参加しました。

9条の理念世界に

9条世界会議in関西

舞洲アリーナ

8千人の熱気あふれ

9条世界会議in関西が6日、大阪市此花区の舞洲アリーナで開催され、8千人が参加。ラジオタレントの小山乃里子さんと精神科医の香山リカさんの対談や国内外の多くのゲストの発言などが行われ、9条守れの熱気にあふれました（8面に写真特集）。

午前中は「アジアの中の9条」世界の貧困・紛争・環境と9条の？のワークショップが行われ、コアピースネットワークのイ・ジュンキさん（韓国）や東興大学哲学科准教授のチェン・ジョウファさん（台湾）、社会の責任を求め医師の会のポール・サオケさん（ケニア）、タカールムホツチさん、弁護士の武村三夫さんが講演。政治を愛する運動とともに、市民的なネットワークづくりで9条のメッセージを世界に広げていく方法などが紹介されました。小山さんの司会で進行

海外ゲストも9条を絶賛

元GHQ（連合軍総司令部）憲法起草者のベアテ・シロタ・ゴードンさんは、憲法草案作成時に多くの国の憲法を研究した様子を紹介。IADL（国際民主法律家協会）会長のアンドレア・シャーマさんは、憲法9条は「これ以上ないほど明確に戦争放棄をうたっている」と指摘し、「平和を願うあらゆる人々が、自

分たちの憲法にも同じような事項を持ちたいと考えている」と話しました。また、「アメリカにこそ9条が必要」と話した元陸軍大佐・外交官のメアリー・アン・ライトさんは、「日本は9条を変えず、そのメッセージで世界に平和をもたらすべきだ」と訴えました。対談で香山さんは、「格差の拡大などの日本社会の病氣に対し、憲法を変えよう」と話している。小山さんは「憲法に対して、いろいろな考え方が、話し合いを通じて意見を交換することが必要」と話し、



憲法9条を守り、広げようと開かれた「9条世界会議in関西」6日、大阪市此花区・舞洲アリーナ

ご支援ありがとうございました。

日本興亜・田崎博美さんの裁判は

三月三十一日 円満に和解成立！

「田崎博美さんとともにたたかう会」

二〇〇六年二月に長期病欠となつてから二年二月、大阪地裁への提訴から一年一〇ヶ月経過した日本興亜損保・田崎博美さんの裁判は、三月三十一日（月）、原告の田崎さんと、日本興亜損保および元上司との間で円満に和解が成立しました。ご支援・ご協力ありがとうございました。

私たちがめざしていた、田崎博美さんが健康回復して、元気に日本興亜の職場に戻ることができるとともに、内容での和解となりました。そして、五月二日、肥後橋ビルの職場に元気に復職しました。

ご支援いただいたすべてのみなさん。みんなの力でつかんだ「和解」です。

職場復帰を目前にした四月一日（火）アイクルの部屋で「感謝のつどい」を開催しました。

河村武信・徳井義幸両弁護士を交え、部屋満杯の仲間八〇名の参加で共に喜びあいました。



日本興亜損保の田崎博美さん